

---

○議長（土屋清武君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

（午後 1時00分）

---

◇ 伴 高 志 君

○議長（土屋清武君） 一般質問を続けます。

通告順位3番、伴高志君。

（1番 伴 高志君 登壇）

○1番（伴 高志君） それでは、通告にしたがいまして、壇上より一般質問を行います。

私の質問は、今回は一つだけです。暮らし、環境整備に関わるごみ処理場の共同化についてであります。

私は、本定例会に先立つ3月議会において、本年度予算の内容でありました1市2町の共同化の策定業務に賛成した立場ではありますけれども、この軌道修正はまだ可能であると、その余地を残して、本当に松崎町民と地域経済にとっては、何がより展望のあるものなのか、その予算の実現を求めていく立場で質問を行っていきたいと思います。

現在、広域化の名のもとに、この小さな地方市町への経済の合理化とも呼べるような流れが否応なく迫ってきています。

そういった中で、本当に生活に直結するものですとか、医療、福祉、教育に関わるこういった広域化の合理化というのは、特に住民サービスの低下に繋がる恐れがあると考えます。

現状においても、こういった多くの業務を抱える、仕事量が多くて頭が回らないという職員の方々のお話を耳にすることも少なくないにも関わらず、それらの生活に密着型のサービスがまた更に低下することによって、行政の役割が不十分であると考えられるようになってしまったら、ますます仕事が多忙で大変なのに、信頼されないという悪循環を招いてしまうこともあります。

こういった立場で、ごみ処理場の共同化は、これは長年にわたって議論され、それぞれの市町の利便性または経済的な損得も絡み、繊細な問題であると考えます。

しかし、一番は、自らの町の住民サービスにとって、暮らし、環境整備にとって最もよい選択肢は何か、近隣市町との関係で最善を尽くすことができなくても、よりよい選択肢は何か、悪循環の展開を回避していく選択肢をいつも頭の隅から離してはいけない、こういう姿勢が求められているのではないかと考えます。この立場で私は質問を行っていきたいと思います。

1. ごみ処理場の共同化について。ごみ処理場の1市2町の共同化は再検討すべきではないか。①本年度予算に盛り込まれた1市2町の整備構想では南伊豆町のなぎさが候補地として挙げられている話がありますが、松崎町にとっては、距離が遠く峠を越えるという地形を毎日走る。こういうことは不合理ではないでしょうか。

②1市3町共同化の経緯は。これは西伊豆町も含めたという意味ですね。西伊豆町が抜けた理由は何でしょうか。また、現在は、西伊豆町はゴミが少ない、足りないと言っている、そういう声もありますが、どうでしょうか。

③今後1市2町、下田・南伊豆・松崎で進めて、途中で方向転換する。松崎が抜ける。こういう考え、こういう余地はありますでしょうか。

以上の3点をお伺いしたいと思います。よろしく申し上げます。

(町長 齋藤文彦君 登壇)

○町長(齋藤文彦君) 伴高志議員の一般質問にお答えします。

1. ごみ処理場の共同化について。①「本年度予算に盛り込まれた1市2町での整備構想では南伊豆町の湊が候補地として挙げられている話があるが、松崎町には距離が遠く峠を越えるという地形を毎日走るの是不合理ではないか」についてです。

ごみ処理の広域化のメリットとしては、建設費、運転費及び施設維持管理費の軽減、長時間運転によるダイオキシン発生抑制などが挙げられます。一方デメリットとして運搬コストの増加などが挙げられますが、今後の施設整備運営にかかる財政負担等を総合的に考えますと、なるべく大きな枠組みの中で、広域的な検討をしていくことが、最良の選択肢であると考えています。

なお、今年度、基本構想及び地域計画を策定する中で、事業用地の基本条件の整理をしますが、現在1市2町で協議を進めている中で、南伊豆町の現施設の場所を候補地の一つとして協議しているところでございます。

②「1市3町共同化の経緯は。西伊豆町が抜けた理由は何か。西伊豆町はゴミが少ないと言っているがどうか」についてです。

近隣市町においても、施設の老朽化が進み、維持管理費や改修費が増加する中で、広域化に向けて検討すべく、平成26年12月に1市3町で勉強会を立ち上げ、広域ごみ処理施設整備を進めていく上での課題・問題点等を検討してきました。

西伊豆町は当初、勉強会に参加しておりましたが、平成28年8月下旬に、今回の広域処理事業への参加を見送ることとなりました。理由は明確にされておりません。

ごみ排出量については松崎町においても西伊豆町同様、相対的には減少傾向にあります。

③「今後1市2町（下田・南伊豆・松崎）で進めて途中で松崎が抜けるという余地はあるか」についてです。

平成29年度において、広域化に向けた基本構想及び地域計画の策定を予定しており、現行施設の延長期限内での整備が可能となるよう、関係市町と協議を重ねていきたいと考えています。

離脱については、選択肢として考えておりません

以上でございます。

○1番（伴 高志君） 一問一答をお願いします。

○議長（土屋清武君） 許可します。

○1番（伴 高志君） 最初の①ですけれども、この1市2町で進めた場合の、失礼しました。

ちょっと固有名詞が、読み間違えました。大変失礼しました。湊という地区ですね。ここになる場合は、弓ヶ浜のすぐそばということですよ。ここに、仮に、場所を設置すると、毎日、町と民間業者のトラックがそこまで走るということになるんですね。その確認をお願いします。

○生活環境課長（馬場順三君） どのようなルートで南伊豆の清掃センターまで行くのかというのは、まだ決定はしておりませんが、松崎町の場合を考えますと、136 経由で雲見から吉祥を経由していくルート、それから蛇石峠なんか経由していくルート、そういったものが考えられますけれども、特に弓ヶ浜の方は通行しないという形にはなります。

○1番（伴 高志君） 片道で、でも、40～50分とか、そのくらいになるんでしょうかね。蛇石を越えるというか、その峠を越えるような、そういうルートを考えますと、非常に、仕事をする人にとっては、大変でどうしてもコストが、運搬のコストがかかると、先ほど町長もおっしゃっていましたが、そういったところで、やっぱり基本的には、サービス内容は変わらないというふうに向っているんですけども、明らかに運搬コストが上がって、手間がかかるということになってくると、コストがかかるわけで、そこに対して、利用者が減るということは考えられないですか。

○生活環境課長（馬場順三君） 現在、住民の方が利用しているごみだしにつきましては、可燃ごみが週2回の収集、それから夏季対策期間中は週3回実施をしております。それから、三浦地区は、夏季期間中は日曜日を除く毎日収集をしております、分別ごみにつきましては、毎月第1、第3週に実施をしているところでございます。

広域化になりましても、この日程が変わるわけではございませんので、住民にとっては、今までと何ら変化はないわけでございます。

○1番（伴 高志君） 今の答弁ですと、特に、夏場は毎日利用するということになるわけですね。宿泊施設が忙しい、もちろん三浦地区に限らず、夏場の観光客の利用シーズンが高い時には、収集車が毎日走るということが、それは、もう今の時点でそうなっているわけですから、それが、やっぱり毎日運ぶということを考えますと、そうとうな手間ですし、それから、やっぱり個人の、やっぱり民宿を営んでいる三浦地区が中心になるかもしれないですけども、そういったところの利用者はもう不便になってしまって、とても民宿は経営できないと、ますます、やっぱり経営が厳しいからやめようということも考えられないですかね。

○町長（齋藤文彦君） 下田市は、1982年の供用開始で35年、そして、南伊豆町は1991年の供用開始で26年が経過しています。松崎町も平成11年の供用開始で18年経っているわけですが、もう3市町で本当に、先ほど壇上で申しましたけれども、今後の施設整備運営に係る財政負担等を総合的に考えますと、なるべく大きな枠組みの中で広域的な検討をしていくことが最良の選択肢であるというスタートしているわけですね。いま、協議会が。

これを進めなければ、松崎単独では、これは、36年3月31日まで雲見の使用期限がありますけれども、そこまでに松崎町としても解決しないと、どうしようもありませんので、いま、協議しているわけです。

ただ、ごみ処理とか何とか、ありますけれども、町民の皆さんに不便を来さないよう、現在の収集体制を継続する予定ですので、それほど町民の皆さんには負担がかからないと思います。

○1番（伴 高志君） いま、町長の答弁で、特に、下田と南伊豆のその耐用年数が非常に迫っているんで、そこに併せて松崎も入っていくという流れで、1市2町という話になったのかなというふうに考えているんですけども、先ほど、最初の話で西伊豆町が、もともとは1市3町で入っていたのに、そこから抜けてしまったのは、理由は明確になっていないとおっしゃったんですけども、ここを、改めてもう一回再検討して、西伊豆町も含めたところでの広域化ということは、今後考えられないでしょうか。これはもう②です。

○生活環境課長（馬場順三君） 今回、西伊豆町が勉強会から退いた理由については、先ほど町長が申しましたように、明確にはなっておりませんが、一部施設がまだまだ自前で使えるので、広域化ではなくて自前で進んでいきたいというような意向もあるように伺っております。

現時点では、広域の中には入るような気持ちはないということでも伺っているところでございます。

○1番（伴 高志君） その耐用年数で、今の町長の答弁ですと、雲見との契約の中では36年の

3月まで、3月いっぱいまでということなんですけれども、どちらかというと、西伊豆と松崎の方がまだ比較的処理場の年数が新しくて、それで、下田と南伊豆はもう、特に下田がもう年数が35年ですか、それで、南伊豆が26年で確かでしょうか。ここを確認したいんですけれども、ここが迫っているのに、合せるのではなくて、むしろ西伊豆町と合せていくということも考えられないですか。

○生活環境課長（馬場順三君） 先ほど町長の答えにもありましたように、できるだけ大きい範囲で施設整備等についてはやる方が財政的にも非常に有利なものですから、例えば、2町ではなくて、1市2町の枠組みの中で今回は考えていきたいと思っております。

○1番（伴 高志君） この広域化というのを考える時に、私は、これは、感覚的なことなんですけれども、やはりより距離が近い方がやっぱり仕事を遠ざけないというか、仕事が減れば人も減るわけですし、それに関連した観光ですとか、そういうことも拍車がかかって、減ってしまうという恐れもありますし、やはりなるべく仕事が遠くへ遠くへと減らしてはならないのではないかと、そういうことを前提にお話しているんですけれども、そういった中で、距離が、松崎町の場合は、南伊豆、下田に、西伊豆町よりは近いということになるわけなんですけれども、そこをもう一回考え直して、例えば、この②のところで触れたんですけれども、西伊豆町には観光のホテルだとか、堂ヶ島だとか、ありますので、時期になれば、すごくごみがたくさんあるんでしょうけれど、時期によってごみが足りないということも、そういう話もあつたんですけれども、こういうところをもうちょっと、一部事務組合じゃないんですけれども、そういうような形で検討してということは、今後考えられるんでしょうか。

○町長（齋藤文彦君） ごみ処理を広域化するというので、1市3町でスタートしたわけですよ。途中から西伊豆町が抜けたわけなんですけれども、じゃあ、松崎町はそっちにいきますよというようなことはできないわけですよ。これから1市2町で進めていくしかないと思っています。

○1番（伴 高志君） じゃあ、関連質問で、一つ伺いたいんですけれども、ごみ処理場とちょっと離れますけれど、西豆プラントの一部事務組合でやっています。これは、西伊豆と共同でやっていると思うんですけれども、これの、松崎町の場合のし尿処理の残砂というのは、これは、いまどこに持って行っているんでしょうか。

○生活環境課長（馬場順三君） 西豆衛生プラントにおきます脱水汚泥につきましては、持ち込み量に応じまして各町で処分をすることになっております。

松崎町で処理をします脱水汚泥につきましては、クリーンピア松崎の方では構造上燃やすこ

とはできません。このため、富士宮市にございます業者の方で中間処理をしまして、埼玉県の方にあります業者の方で最終処分をして、人口の砂に変えております。

一方、西伊豆町の方では、自前で燃やせるので、自前の焼却炉で焼いた後に、西伊豆町の最終処分場の方で処分をしている状況でございます。

なお、参考まででございますけれども、西伊豆町の最終処分場の方もあと7～8年位でいっぱいになるというふうなお話を伺っているところでございます。

○1番（伴 高志君） いま、詳細なお話を聞きましたけれども、細かいところでしたけれども、そういったところを少し詰めていけば・・・、例えば、松崎町のごみ処理場と西伊豆町のごみ処理場の能力とか、特徴とか、違うわけですから、そういうところで、こういったところだったら、西伊豆町にお願いすることも可能なんじゃないかと、そういった形で、ずっと大きな施設としてのごみ処理場の共同化という話だけじゃなくて、やっぱり細かいところまでの、ごみの処理とか、そういうことを考えていくということは、これからも可能なんじゃないかと思うんですけれども、いかがでしょうか。

○町長（齋藤文彦君） 施設的には西伊豆町の焼却施設も19年が経過しているわけですね。それで、今後、維持管理についても多くの費用がかかることが考えられますよね。

それで、やっぱり自分たちをしては、今後の施設整備、運営にかかる財政負担を考えると、なるべく大きな枠組みの中で、広域的に検討してきているわけですから、松崎町としては、西伊豆町は考えないで、1市2町でやっていくしかないと思っています。

○生活環境課長（馬場順三君） 現在の松崎町のクリーンピア松崎につきましては、平成11年に稼働しておりますけれども、当時、クリーンピアの建設事業費というのは、総事業費22億円かかっております。

ですから、また新たにそういった施設をとすることは、先ほど町長が申しましたように、広域的で考えていった方が財政面でも有利であるという形で、今回の広域化に向けた動きでございます。

○1番（伴 高志君） もちろん広域化で進めていくということですが、やっぱり、一つは、最初にお話したように、やっぱり生活に密着するものは、できる限り、遠ざけてしまうのは、町民にとってこれはまずいんじゃないかということと、それから、処理場を造ったけれども、結果的に予想していたよりもごみが少なかったと、そういう事態が起こってしまうのは、どうしてなのかということもあるかもしれないんですけど、ですから、やっぱり一番は、住民サービスを考えた時に、松崎町民にとって一番生活に身近なところでの、やっぱりごみ処理、

それから特に夏場のハイシーズンは個人や民間や旅館での利用があるということがありますので、こここのところをやっぱり十分に考慮したところでの広域化ということでなければ、それだけお金をかけて、すごく大きな事業だと思しますので、そこを非常に慎重にお願いしたいということと、それから、やはり今後も、西伊豆町は隣ですから、やっぱり一番近いですから、共同してやれることというのは、これからも追及していただきたいということがあります。

この西伊豆町が、1市3町から抜けてしまったという理由が明確でないというところが、まず、ここから、もう少し、戻ってみるということもできるんじゃないかと思うんですけど。

○生活環境課長（馬場順三君） 先ほどの繰り返しになりますけれども、従来の収集体制というのは変わりませんので、住民の方というのは、今と同じような曜日に同じ場所にごみを出すということですので、広域化になってもサービスが低下することには繋がらないと考えております。

それから、西伊豆町につきましては、現在、南伊豆町さんの方が広域化の事務局を務めておりますけれども、南伊豆町さんを通じまして、もし、今後加盟する意思があれば、また声をかけてくださいというようなことで、西伊豆町には声かけは行っているようでございます。

○1番（伴 高志君） サービスが低下しないということで、課長の答弁をいただきましたけれども、ぜひ、働く人たちにとっても負担が増えないように、そして、また、地元のそういう仕事の場が減らないような形で方向性をお願いしていきたいと思います。

そして、また繰り返しになってしまいますけれども、西伊豆町とのあいだでの、大きなところでの広域化はできないとしても、部分的な協力関係というのはできると思いますので、そういったところでの話し合いを深めていく関係、そういったものをお願いしていきたいと思います。

これで、ちょっと堂々巡りになりますので、質問は終わりにしたいと思います。ありがとうございました。

○議長（土屋清武君） 以上で伴高志君の一般質問を終わります。

暫時休憩します。

（午後 1時30分）

---